

我が家の家庭教育

篠本 越川栄美子

大人の合唱「早く早く〇〇〇〇〇〇しなさい」

我が家は、私達夫婦と私の父母、小学六年の長男、三年の長女の六人です。私達夫婦は勤めていますので、父母が田畑を耕作するかたわら面倒をみてくれます。朝はたいへんにぎやかです。「おはよう！」

「おはよう、おかあさん！」眠むそうな目をこすりながら、二人の子供達が、それぞれ起きて来て、今日の一日が始まります。

コタツの中へすっぽりもぐってしまい、なかなか行動に移りません。朝などは、四人の大人の目が注がれているせいか、ついつい「早く早くしなさいよ！」と何度も大人が合唱してしまいます。それでも、いつこうにあわてる様子もみられませんが、どこの家庭でもよくある光景ですね。

そこで、我が家では相談の結果、禁句「早く早く」「早く早く〇〇〇〇しなさい！」

この二つを出来るだけ使わない様に心がけています。それでも朝になると、ついつい「早く早く〇〇〇〇しなさい！」と言葉が出てしまいます。私は、「遅くなくても知らないぞ！」のんびりしている二人を横目でにらみながら、こうなっ

たら親と子の根くらべです。一日、二日目、あつ又言ってしまった。そんな繰り返しの中で十日もすぎるところは、わずかながら変化が表れて来ます。時計を気にしながら、自分自身で時間調整の姿勢がみえて来ました。今日このごろです。親が口うるさく言っても、子供達が動かないのは、彼ら自身の意志ではないからなのです。親からの「〇〇〇〇しなさい！」命令言葉。いつまでも子供の親に対する依存性を助長し、子供の自主性を阻害する要因になると、家庭教育学級に参加して講師の先生方より学ぶ事が出来ました。

そして、我が家では、主人が仕事の都合上週半分位夜に家をあけるので、日常の親子の会話を大切にしております。幼ない時からの習慣で、夜帰って来ている日は必ず二人の子供達と一緒に風呂に入り、学校の出来事、長男の習っている剣道の事、友達の話、勉強の事、その他いろいろ話している様です。たいへんなにぎやかさで、主人が帰って来た日は家中が「パツ」と明るくなる様に思います。

毎日の家庭生活には、あげたら数えきれない程の小さな失敗や、大きな失敗があるでしょう。失敗を体験しながら少しずつ成長し、乗り越えて欲しいものです。また、息子や娘が何んでも気軽に話せる様な親子関係を心がけていきたいと思えます。

私自身、あらためて「我が家の家庭教育は何か」と問いかけてみました。これと言え具体的な答は出て来ません。私にとって二人の子供が成人に達した時、

わかる様な気がします。子供が生れば誰もが親になるのですが、一人の人間を生み、一人前の社会人になるまで育てあげることは、複雑な社会の中で、生きること自体たいへんになって来ている今、親である自然の姿が、子供の心に奥深く反映し、子供の成長に大きく左右されていくのではないのでしょうか。ふと、以前見た映画「北キツネ物語」が、なぜか思い起されました。機会があったら、もう一度、二人の子供達と見たいと思います。

おじやまします

四月五日南条小学校におじやましました。
全校生徒が体育館に集まり、始業式が行われていました。
校長先生のお話や、生徒代表の抱負などを、みんな一生懸命聞いていました。



南条小学校

清らかな校歌の歌声に、時おり小鳥のさえずりも聞こえ、すがすがしい新学期のスタートでした。



児童福祉週間 (5月5日~11日)